様 式　1

令和３年度　江別市立江陽中学校　自己評価書

令和4年　2月21日
江別市立江陽中学校

１．本年度の重点目標

「共に高め合い、粘り強く挑戦できる生徒の育成」～社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開くため

２．自己評価結果に対する学校関係者評価

Ａ：よい（充分達成された）　Ｂ：概ねよい（概ね達成された）　Ｃ：ややよくない（やや不十分）　Ｄ：よくない（不十分である）

分野	評価項目		自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	①	教育目標や年度の重点を意識し、共通理解に基づき、協働性をもって取り組んでいるか。	A	教育目標や重点の共通理解を十分に図り、協働体制を重視して取り組んできた。重点目標を「共に高め合い、粘り強く挑戦できる生徒の育成」～社会的変化を乗り越え　豊かな人生を切り開くために～」とし、本校の課題である「学力の向上」を図るため、目的意識や目標をしっかりと持たせて結果や経過について具体的な評価をすることで、自己肯定感や自尊感情を高める取り組みを進めてきた。Ｐ-Ｄ-Ｃ-Ａサイクルを生かし、各教科や道徳教育、特別活動をはじめ、全ての教育活動で自尊感情を高めるために、教職員集団が「一枚岩」となり協働性を発揮した。今後も、生徒、保護者、関係者アンケートを通して実態を把握し、具体策を計画的に一層充実させていく。	A A6	A A6
	②	かかわりと励ましを基本とし生徒の良さが生かされる教育活動に取り組んでいるか。	A	授業や日常生活を中心に、コミュニケーションに重点を置きながら委員会活動や部活動等、あらゆる活動を通して生徒との積極的な関わりや、個々の生徒についての情報の共有、教育相談等の体制を整えてきた。今後も生徒をしっかりと把握・理解し、生徒たちに自己有用感を育んでいけるよう、行事や授業、教育相談等の一層の充実を図っていく。	A A6	A A6
	③	保護者、地域との連携を深め信頼される学校づくりに取り組んでいるか。	B	これまで「文化祭バザー」や「トウキビ販売」等のPTA行事や花ロードの設営管理、スキー講師や各機関の外部人材活用等、積極的に保護者・地域との連携を推進してきた。コロナ禍により「トウキビ販売」を除く取組は中断しているが、専門性や今後社会で生きる人材を育成するためにも、連携した取り組みを盛り込みたい。また、学校だよりの全地域配布・HPの公開等で情報発信に努めると共に、保護者アンケート等を取り入れた学校評価等、地域・社会に開かれた学校を目指してきた。更に、マチコミメールを使用して、情報発信の強化を行っていく。	A A6	A A6
	④	生徒に向き合う時間の確保と職員のワークライフバランスに配慮した働き方の見直しを進めているか。	C	教職員が生徒と直接関わり向き合う時間を確保するために、ICT導入による業務の効率化や、業務の精選を図ってきた。しかし現状では月45時間以上の超過勤務となっている職員も多いことに変化はない。生徒のためによりよい指導をという思いから、準備や評価に時間をかけてしまう現実がある。しかし、教職員が心身ともに余裕のある状態こそが、生徒と接する上で最も重要なことであり、このことを教職員全体の課題として再確認したい。また、次年度からは高速プリンターや留守番電話の導入による業務の効率化が期待されると共に、校内に「働き方改革」の推進委員会を設置し、具体的、効果的な取組を策定・推進を図り、地域や保護者への理解を得ながら超過勤務の縮減に取り組んでいく。	A A5B1	A A4B2
教育課程・学習指導	①	確かな学力を育む学習活動の工夫は推進されているか。	A	次年度の研究主題を「自己肯定感を持ち、確かな学びを獲得していく生徒の育成～協働的な学びと個別最適な学びを取り入れた学習指導を通して」とし、生徒一人ひとりが自らの学びを創造できるようにすることを重点課題とする。そのために必要な授業改善や指導方法の一層の工夫を図り、課題解決を図っていく。また、TT授業や習熟度別学習に加え、一人一台端末やデジタル教科書等のICTを活用した授業を進め、時代の要請に応じた授業の刷新を図っていく。標準学力テストや全国学力・学習状況調査の結果分析、さらに本校独自の生徒アンケート等による生徒の実態把握、課題の共有化を図り、弛まぬ授業改善を進めていく。	A A5B1	A A6
	②	思いやりや感謝の心を持ち、共に高め合う学年・学級集団の育成は図られているか。	A	道徳や特別活動、総合的な学習の時間等では、自分自身を見つめ、他人、集団や社会、自然等との関わりを考えさせてきた。その中で、周囲を思いやり、支え合い、認め合って活動する機会を意図的に作るとともに、体験的な活動の充実を図ることにより、自己肯定感や有用感を醸成し、思いやりや感謝の心などを大切にする「豊かな心」を育ててきた。また、生徒会が主体となって取り組む「いじめ撲滅集会」をはじめとした活動を支え、意識の高揚を図った。今後も、学校活動全体の中で「思いやりや感謝の気持ち」を意識させ、道徳的実践力の向上を図り落ち着いた校内生活を送らせるとともに、生徒会や学級活動、行事、集会を通して共に高め合う集団づくりを目指していく。	A A6	A A6
	③	家庭学習の習慣化を図る、学力向上プロジェクトの推進は充実しているか。	A	学力向上プロジェクトの取り組み（成果テスト、テスト前の朝自習や予想問題づくり等）により、着実に成果を得た。また、家庭学習を計画的に促す目的で学年部で工夫した取組みを進めた。また、生徒の基礎・基本の定着を図るためのＴＴ指導の工夫、学習支援ボランティアによる数学の放課後学習や長期休業中の補充学習などを実施した。しかし、学習習慣についてはまだまだ定着には遠い状況である。さらに、家庭、地域の協力を得ながら、生徒の学習意欲の向上を図り、学習習慣の定着と学力の向上を一層図っていく。	A A6	A A6
	④	生徒が生き生きと活動する学校行事等の企画や運営が適切に行われているか。	B	例年、体育祭、文化祭では、生徒会が中心となり、創意工夫をこらした活動が展開され、生徒も教師も充実感が得られる行事となっている。今年度は体育祭は学年別に実施、文化祭は規模と内容を変更して実施した。また、合唱については文化祭では実施できなかったが、10月末に発表会として実施し、本校の伝統である合唱の灯を絶やさずに先輩から後輩へと受け継ぐことができた。旅行的行事については、１年生校外学習、２年生宿泊学習を７月に、３年生修学旅行は１０月に実施し、学級や学年の生徒同士のつながりを深めることができた。今後も達成感・成就感の味わえる行事等の充実を計画的に図っていく。	A A6	A A6
	⑤	生徒一人一人の勤労観・職業観を育て、主体的に進路選択する指導が適切に行われているか。	B	例年、勤労観や職業観を育むために、２年生で「職場体験」を総合的な学習の時間で実施しているが、今年度は職場体験を実施することはできなかった。次年度については１年生の総合的な学習の時間に「トウキビ販売」を題材に職業観を養いや勤労体験の機会として設定し、２年生での職業体験学習につなげていく計画である。また、系統的に進路指導に活用しており、更に主体的な進路選択につながるよう、計画的で効果的な指導の充実を進める。	A A5B1	A A6

分野	評価項目		自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
生徒指導	①	挨拶、きまりや集団のルールを守るなど基本的な行動ができる集団づくりに努めているか。	A	校内生活指導は「挨拶」を中心にコミュニケーションを大切にした指導を進め、成果を挙げているため、さらに、安心した学校生活を送らせるために、「生徒の自己肯定感」を一層高めるさせるとともに、「日常的な生徒の様子」も把握し、指導部・学年部を核として、協働体制を確かなものとし、併せて、保護者との連携を図る取組を着実に積み上げていく。また、生徒の自主的な活動を促す指導・支援も継続して行う。	A A6	A A6
	②	いじめ・不登校・問題行動への対応は、共通理解のもと、保護者と連携し適切に行われているか。	A	「江陽中学校いじめ防止基本方針」に基づき、未然防止・早期発見・解決向けた意識の高揚を図った。また、生徒会「いじめ撲滅集会」や「繋ぐメッセージ」等、生徒自らが意識を高める取組の継続を進めた。不登校に関しては依然見られるところであるが、ＳＣやＳＳＷ、スポットケア等の関係機関との連携を十分に図り、個々に応じた相談体制を整えている。今後も保護者との双方向での連携を大切にし、適切な対応に努める。	A A6	A A6
	③	健康や安全にかかわる指導は、適切に行われているか。	A	健康上の配慮を要する生徒の情報共有を欠かさず適切に行ってきた。また、次年度も外部機関と連携し「交通安全教室」「インターネットマナー講座」「避難訓練」「非行防止・薬物乱用防止教室」「情報モラル教室」「食育授業」「救急救命講習」などを実施し、健康・安全指導を計画的に進めていく。今後もさらに地域自治会や外部機関等を活用に活用し、継続的に効果的な指導体制を整えていく。	A A6	A A5B1
	④	生徒会活動や学級活動は、生徒の自主性を育む活動となっているか。	A	各委員会活動、集会活動等、生徒会や生徒自身が主体的に取り組めるように指導を進めてきた。特に生活委員会では校則の見直しを行い、自分たちの生活に必要なルールづくりを進めた。行事に向けての学級活動や生徒会活動においては、生徒たちの達成感や充実感に高まりがみられるようになった。更に自己肯定感や有用感を醸成する行事・活動となるように工夫し、自主性の育成に力を入れて進めていく。	A A6	A A6
その他	①	「花と緑の江陽」の取組は適切に行われているか。	A	花壇ボランティアを中心に「花と緑の江陽」の取組を継続し、可能な範囲で充実した活動を行うことができた。また、特別支援学級の花壇、畑の整備も継続され、一層の充実を図るとともに、校内にも「花のある風景」を意識した取組が推進された。今後は、しっかりと継続させていくための活動を工夫し、地域の方々の協力を得ながら、環境整備を進めていく。	A A6	A A6
	②	心を育てるボランティア活動の取組は適切に行われているか。	B	今年度は実施できなかったものもあるが、例年、生徒会クリーンボランティア、恵明園窓ふきボランティア、PTA資源回収など、生徒のボランティア活動場面を設定してきた。また、自治会長の協力を得て、ボランティア活動の意義についても考えさせることにも取り組んできた。ただ、新型コロナへの感染対策の観点から、今後継続ができる活動とできない活動がでてくると考えられ、新しい取組を模索していく必要がある。	A A5B１	A A6
	③	合唱活動等を通した、感性豊かな環境作りの推進は適切に行われているか。	A	文化祭の合唱発表、儀式や集会での校歌や全校合唱の取組など、本校の合唱活動は生徒の誇り、伝統となっている。合唱は文化祭では10月末に発表会として実施し、本校の伝統である合唱の灯を絶やさずに先輩から後輩へと受け継ぐことができた。今後も全教職員の共通理解と関わりをもち、地域との連携を絶やさずに、地域の誇りとなるとともに地域の中で育つ生徒づくりを目指していく。	A A6	A A6
	④	校内組織の活用や交流、実践など特別支援の推進は適切に行われているか。	A	特別支援教育コーディネーターや校内特別支援教育委員会を中心に、担任や学年と連携し、生徒一人一人に寄り添い、情報共有と共通理解を図りながら取組を進めてきた。「特別支援学級」では、より充実した指導を展開している。また、特別支援教育に関する研修にも取り組み、特別な配慮や合理的配慮、個別の支援を要する生徒の指導・支援に関し、共通理解と情報の共有を深め、特別支援教育のさらなる充実を図っていく。	A A6	A A6

【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】
〇コロナ禍により、集会や地域の交流が制限されている事が評価に影響しています。評価委員が校内の様子や学校行事を見る機会が無く、評価が難しい。早期にコロナが終息することを願っています。
〇コロナ禍で思うような活動ができない中、先生方は生徒の皆さんのためにご尽力されている事と思います。そんな中でも、先日拝見させていただいた授業参観で子どもたちが生き生きと学習に取り組んでいる姿を見て、みんな頑張っているんだなと安心しました。制約された生活はこれからも続くと思いますが、生徒ひとりひとりの個性が生かされる中学校であって欲しいと思います。
〇よくやっていただいています。業務の改善は一足飛びには出来ませんが、以前勤めていた会社で行っていたのはお互いの共通理解と問題意識。一つずつやらなくてよいことをあぶり出す作業をしていました。少しでも参考になれば…。
〇先生方や学校の日々の取り組みは、率直にただただ大変だなぁと思うと同時に有難くもあります。働き方改革や、ボランティア等の活動については、新型コロナの影響や国としての取り組みが絡んでくると思うので、学校や先生方だけの努力では難しいと思います。このような取り組みや方策等が、１人でも多くの保護者と生徒、地域の方々等に知ってもらえると良いなぁと思います。ありがとうございました。
〇新型コロナへの感染対策を常に考えなければならない中、様々な事に対し、計画、実践していただいている事に感謝いたします。江陽中の伝統、地域性をとても考慮されて学校運営に取り組んでいらっしゃる事が、素晴らしい事だと思います。